

## ゆめぎんがスペースチームスタッフおすすめ

土星を見てみよう!



©国立天文台

木星を見てみよう!



©国立天文台

今から見られる天文ショー☆

秋の夜空は、明るい星が少なく、木星と土星がよく見えます。木星は8月～12月頃、土星は7月～11月頃が観測シーズンです。



岸田さん

スタッフ

スペースチーム

小さい望遠鏡でも輪っかが見えるのは土星だけ。レンズの直径が5～10センチで100倍もあれば見ることができます。双眼鏡では橢円形っぽく見えることもあります。

マイナス2等級ととても明るい木星は、肉眼でもはつきり見ることができます。大きめの双眼鏡でのぞくと木星の周りをまわる4つのガリレオ衛星(ガリレオ・ガリレイが発見)を見ることができます。

## 武雄の星を撮ってみよう!!

星を撮るには準備が大切!明るいうちに準備をしておこう!

1

三脚の設定



2

カメラの設定  
【モード編】



3

カメラの設定  
【ピント編】



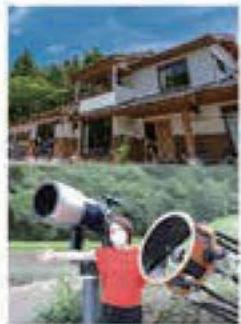
必要なもの



どちらの方向で撮るかを決め、しっかりと固定しよう。このとき、カメラを落とさないようにストラップは首にかけたまま。

「M」に合わせます。ISOは、「1600」程度、ホワイトバランスは「太陽」、絞りは一番小さい値に、シャッタースピードは明るさにより「5～15秒」の間で調整します。

P8の星空は、この時に撮影したものです!



Share Creative & Bed adonoan  
(シェアクリエイティブ&ベッドアドノアン)

武内町真子野32232

TEL.090-7828-1860

一泊朝食付き 4,500円～

気さくなオーナー夫妻が迎えてくれる。天体やカメラ好きな方、子どもの思い出作りに!専門的な機材が豊富なので星の魅力を存分に堪能できます。

カメラ講師



野田 尚之氏

1965年(昭和40年)、武雄市生まれ。1987年、博報堂入社。後に写真部が独立してできた博報堂フォトクリエイティブ(現・博報堂プロダクツ)に所属。25年間、広告写真や動画など多くの作品を手掛けた。2012年に独立し、ふるさと武雄市に戻った後も世界各地で活躍している。佐賀県天文協会会員。

魅力的な宇宙へとご案内いたします。

宇宙の魅力って何だと思いますか?私は大きく二つあると思います。一つは人間の月面到達や、火星探査機の着陸等、惑星探査を成し遂げてきました。二つ目は、未知の領域を知ることだとだと思います。現在の私たち全宇宙のたった4%しか知らないんです。残り96%は「何かわからないけど、何かある」という状態。そんな未知のことだらけな宇宙を知っていくのはワクワクしませんか?

こんな話もしましよう。私たち生命はいつないとから来たのか?...私たちは何者なのか?...宇宙の誕生は今から138億年前。宇宙には水素とヘリウムしか存在しなかったんです。やがて星ができ、星の中で様々な物質が創り出されました。星の死とともに、それらの物質は新しい星の素材に。私たちの体は炭素、酸素、カルシウムなどいろいろな物質からできていますが、それらは運か昔、名もない星の中で創り出されたものなんです。星空を見て感動したり、和んだりするのは、体を構成する物質が宇宙を遙かな故郷だと覚えているのかも...そんなことを考えながら星空を見上げるのも楽しいのではないでしょか。

佐賀県立宇宙科学館「ゆめぎんが」館長 渡辺 駿巳氏

1946年(昭和21年)、新潟県佐渡島生まれ。1974年、宇宙開発事業団(現JAXA)に入社以来、一貫して広報・普及業務に携わる。2005年からは宇宙教育推進室長として、特に青少年の教育の場で活動。2007年、JAXA定年退職後も、一般財団法人日本宇宙フォーラムにおいて活動を続け、2018年4月、佐賀県立宇宙科学館館長に就任。

KATSUMI  
WATANABE

## 武雄にまつわる宇宙

1

日本宇宙少年団武雄分団



2

NAOKO☆アサガオ



3

眉山キャンプ場



4

JAXAGA SCHOOL



佐賀県とJAXA(宇宙航空研究開発機構)が連携したプロジェクト「JAXAGA」(ジャクサガ)の第一弾として、宇宙に関する授業や体験活動を行う「JAXAGA SCHOOL(ジャクサガスクール)」が佐賀県立宇宙科学館にて開校しました。市内からも小中学生合わせて8名の生徒が参加しています。

佐賀県立宇宙科学館が開館した、1999年(平成11年)7月に結成されました。佐賀県では初。宇宙及び科学への探求心と向上心をもつことを目的として月1回の活動を行っています。

写真はペットボトルロケット打ち上げの様子。全国大会も開催されています。

写真是、当時武雄分団で育てられた、NAOKO☆アサガオの12代目子孫です。平成22年4月、日本宇宙少年団の副団長を務めていた山崎直子宇宙飛行士の公式記念品として宇宙を旅し、その後採取された種子は皇室や被災地などにも配布されました。